

平成 14 年度大刀洗中学校のツ反検査結果についての考察

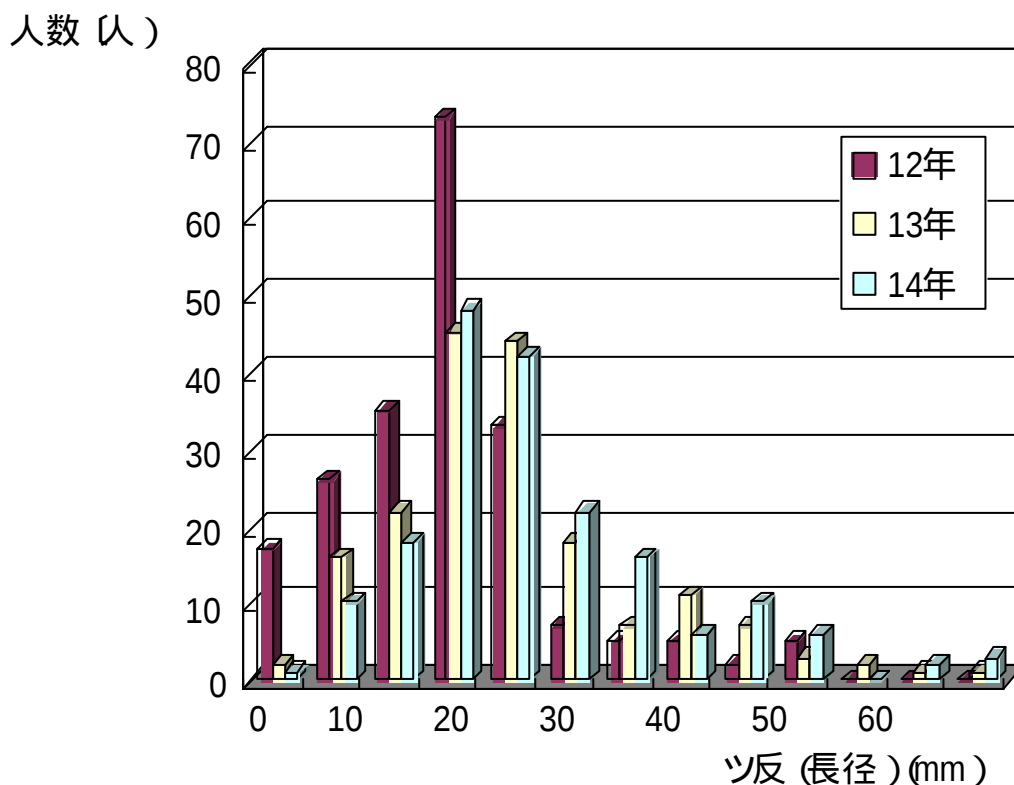
大刀洗中学校医の橋本達郎先生と小郡三井医師会胸部レントゲン読影グループリーダーの白石恒明先生が、大刀洗中学ツ反検査結果について検討し考察された。

平成 14 年度における大刀洗中学校結核定期健康診断ツベルクリン反応検査の状況について

平成 14 年度における結核定期健康診断ツベルクリン反応検査の状況について御報告申し上げます。

今年度のツベルクリン反応強陽性者の増加を鑑み前年、前々年との結核定期健康診断ツベルクリン反応検査の状況を比較検討いたしました。

平成 12 年度	対象者	203 名	うち強陽性者	18 名
平成 13 年度	対象者	179 名	うち強陽性者	19 名
平成 14 年度	対象者	184 名	うち強陽性者	28 名



結果、年度別結核定期健康診断ツベルクリン反応検査のヒストグラムにて検討いたしましたが、その分布に偏り、2 峰性等の所見は認めず、統計学的にも年度による分布の偏りを認めておりません。よって、大刀洗中学校において、結核の集団感染等の可能性は極めて薄いものと思われます。また、本年度のツ反強陽性者の増加は小学校 1 年時のツ反判定の方法、BCG 接種の手技的な変化等によることが考えられますが、詳細は不明です。強陽性者に対する INH による予防投薬についても妥当と考えます。よって、今回の結核定期健康診断に何等問題は無いと考えます。

平成 14 年 10 月 1 日

大刀洗中学校校医
橋本 達郎

教育委員会からも平成 14 年度大刀洗中学のツ反強陽性者 28 名と各々の受診医療機関についての報告があったが、28 名中最大発赤径 40mm 以上が 14 名、予防投与が 6 名で、全員が受診済みだった。